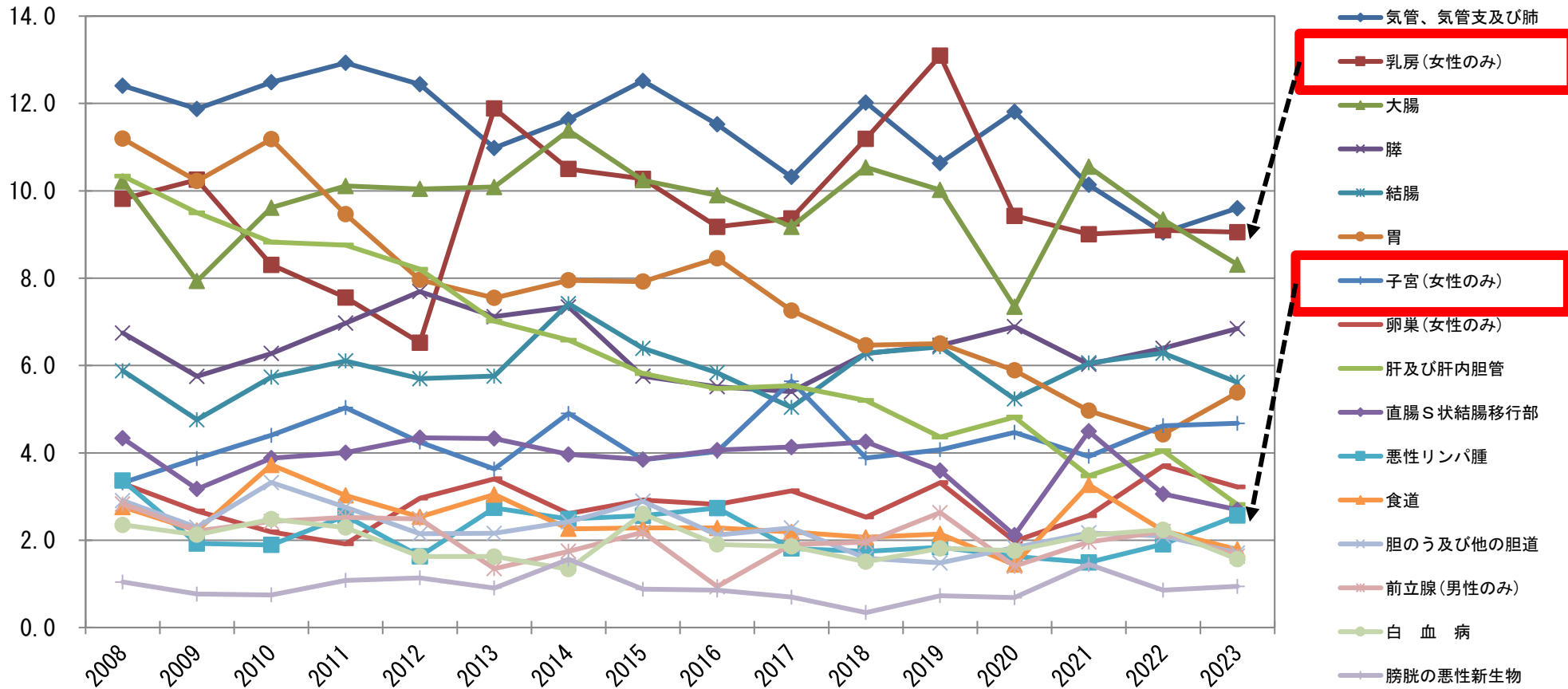


各がんの登録状況からみた 評価のまとめ

※令和6年度は、全国がん登録において2021（令和3）年の罹患者に関するデータが確定される年ですが、全国がん登録システムの障害により確定作業が遅れており、2020（令和2）年のデータが最新となります。

部位別 75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）

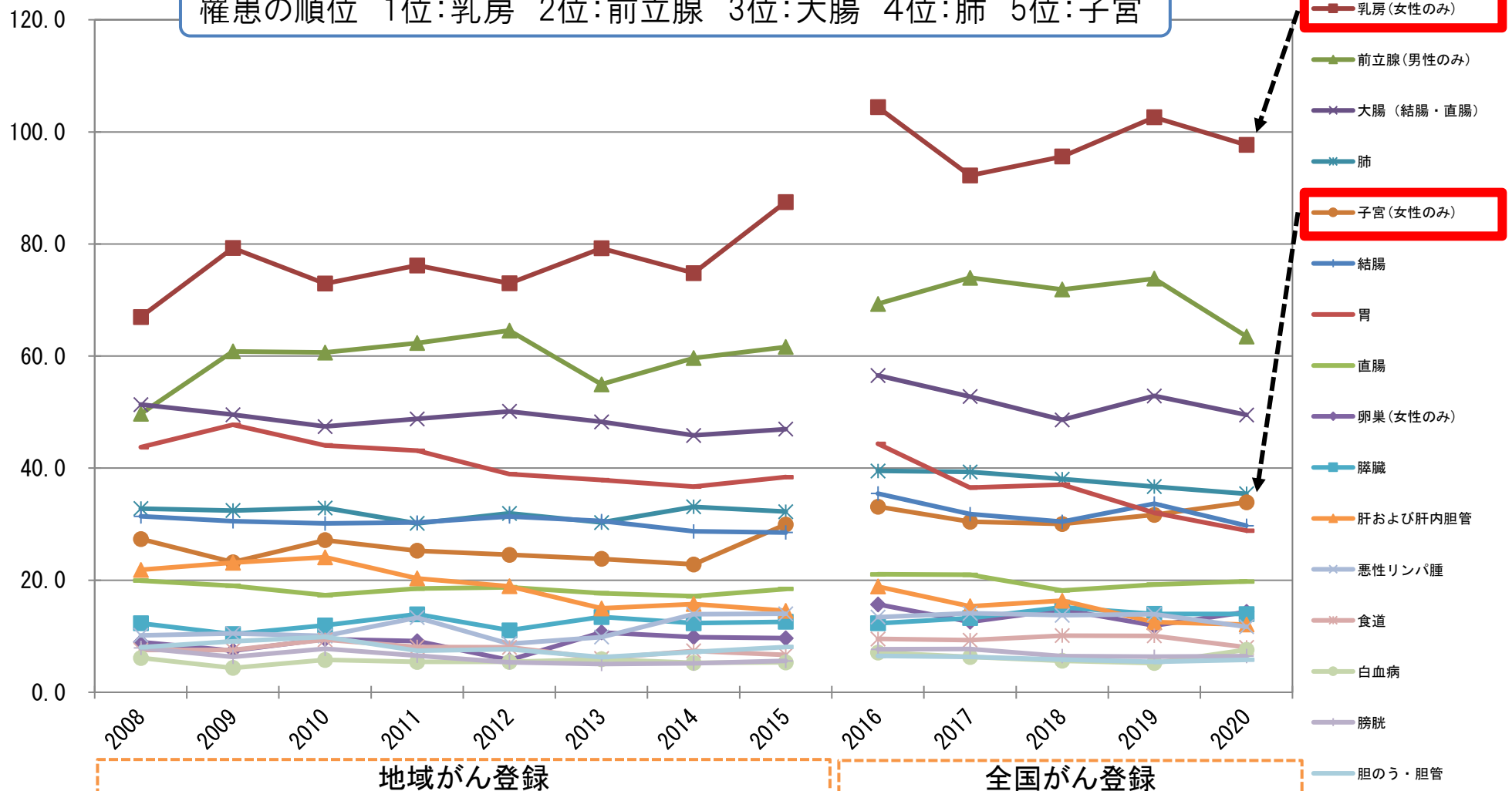


出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（人口動態統計）

乳がんによる死亡率は、各年ごとに変動が大きいですが、長期的にみるとやや増加傾向で推移している。
子宮がんによる死亡率は、他のがんに比べて低いものの、やや増加傾向で推移している。

部位別年齢調整罹患率(人口10万対)(上皮内がんを除く)

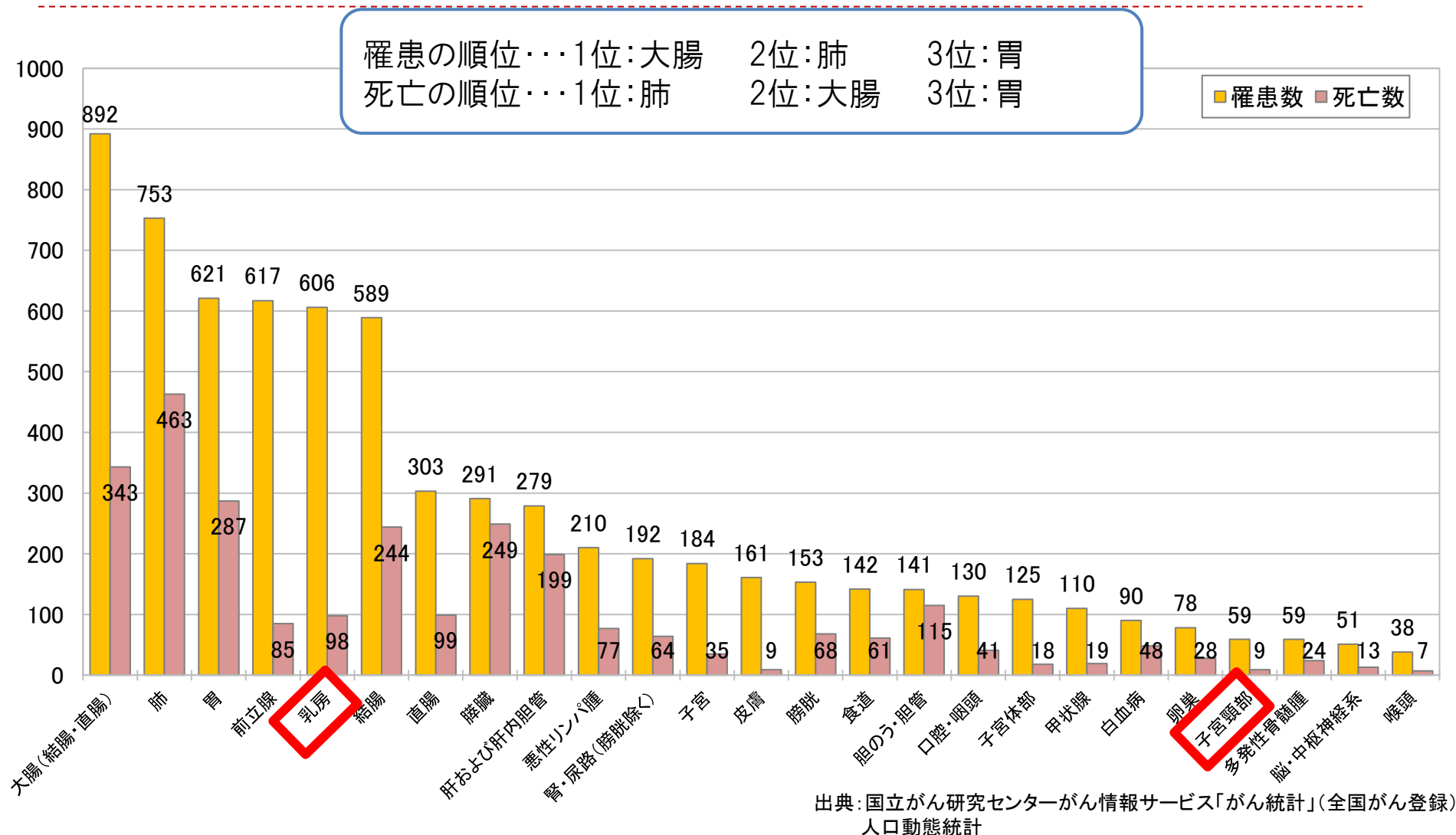
罹患の順位 1位:乳房 2位:前立腺 3位:大腸 4位:肺 5位:子宮



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

乳がんの罹患率は、他の部位と比べても高く、近年は横ばいで推移している。
子宮がんの罹患率は、比較している部位では5番目に多く、横ばい傾向である。

山梨県の罹患数と死亡数の比較(2020年)



がんにかかった人の数(罹患数)は、大腸がんが最も多く、肺がん、胃がんが続いている。がんにより亡くなった人の数(死亡数)については、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順になっている。乳がんや前立腺がんのように罹患数に比べて死亡数が少なく、死亡原因になりにくいがんがある一方で、肝がんやすい臓がん、胆のうがんなど、罹患数と死亡数の差が小さいがんもあるということもわかる。

乳がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的にやや増加傾向で推移している。
2. 5年相対生存率は、限局98.9%、領域92.7%であり、いずれも90%を超えている。
3. 発見経緯は、検診等が34.1%で他のがんに比べて高いが、自覚症状等も49.3%ある。
4. 発見経緯別の進行度(2016～2020)は、自覚症状等で発見されたうち限局が50.7%で、他のがんに比べ高いことから、検診の定期受診だけでなくブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)の啓発普及に努める必要がある。

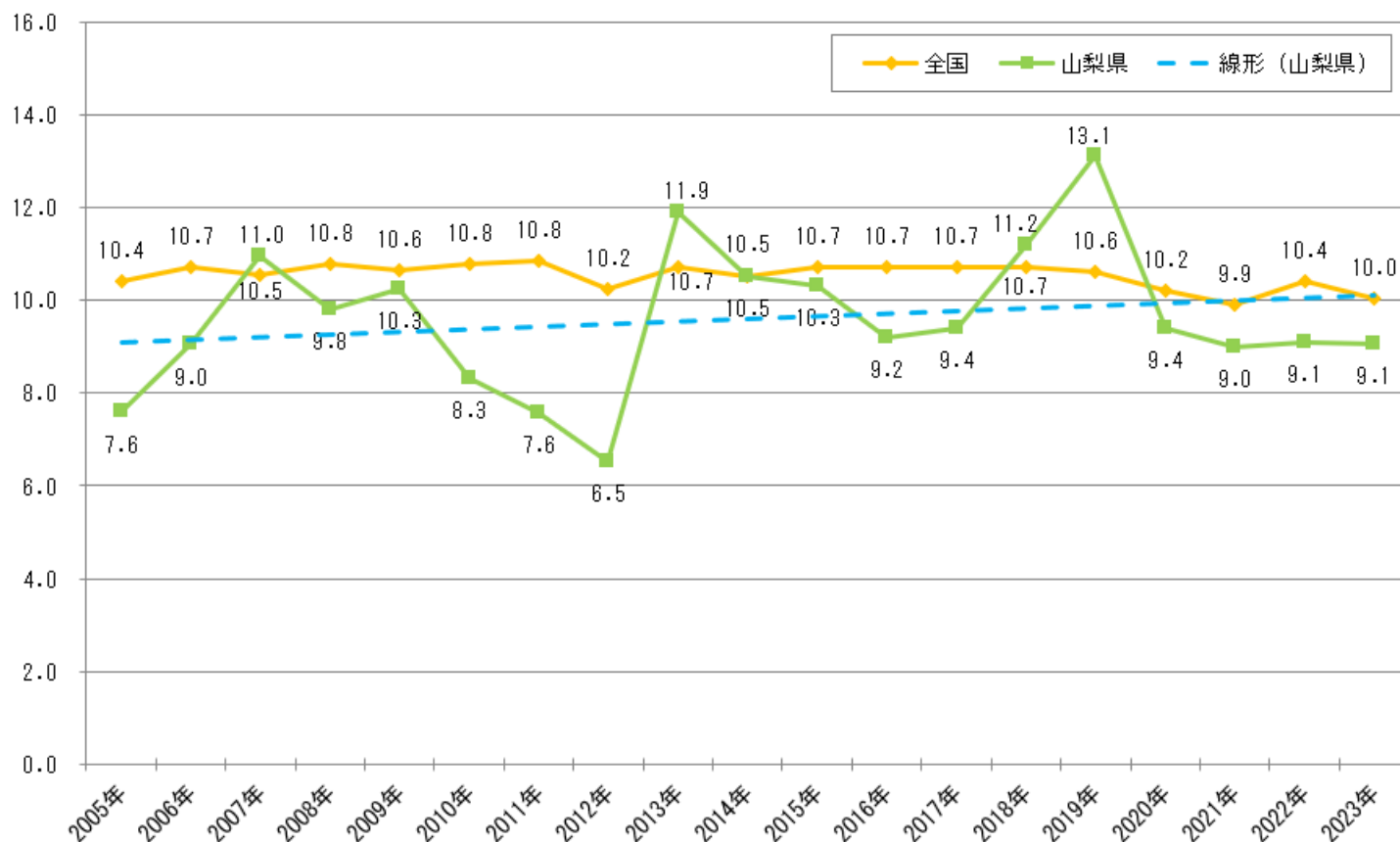
子宮頸がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率(子宮がん)は、年毎に増減はあるが長期的にやや増加傾向で推移している。
2. 年齢階級別罹患数は、上皮内がんを含む場合は30代後半がピークであることから、若年層への検診受診勧奨が重要である。
3. 上皮内がんを含む発見経緯別の進行度(2016～2020)は、検診等で発見されたうち上皮内がん及び限局が9割を占めるのに対し、自覚症状等ではこれらが6割にとどまる。
4. 5年相対生存率は、限局が98.5%であるが、領域では72.0%に減少しており、早期発見が重要である。

乳がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的にやや増加傾向で推移している。
(参考資料1スライド65)

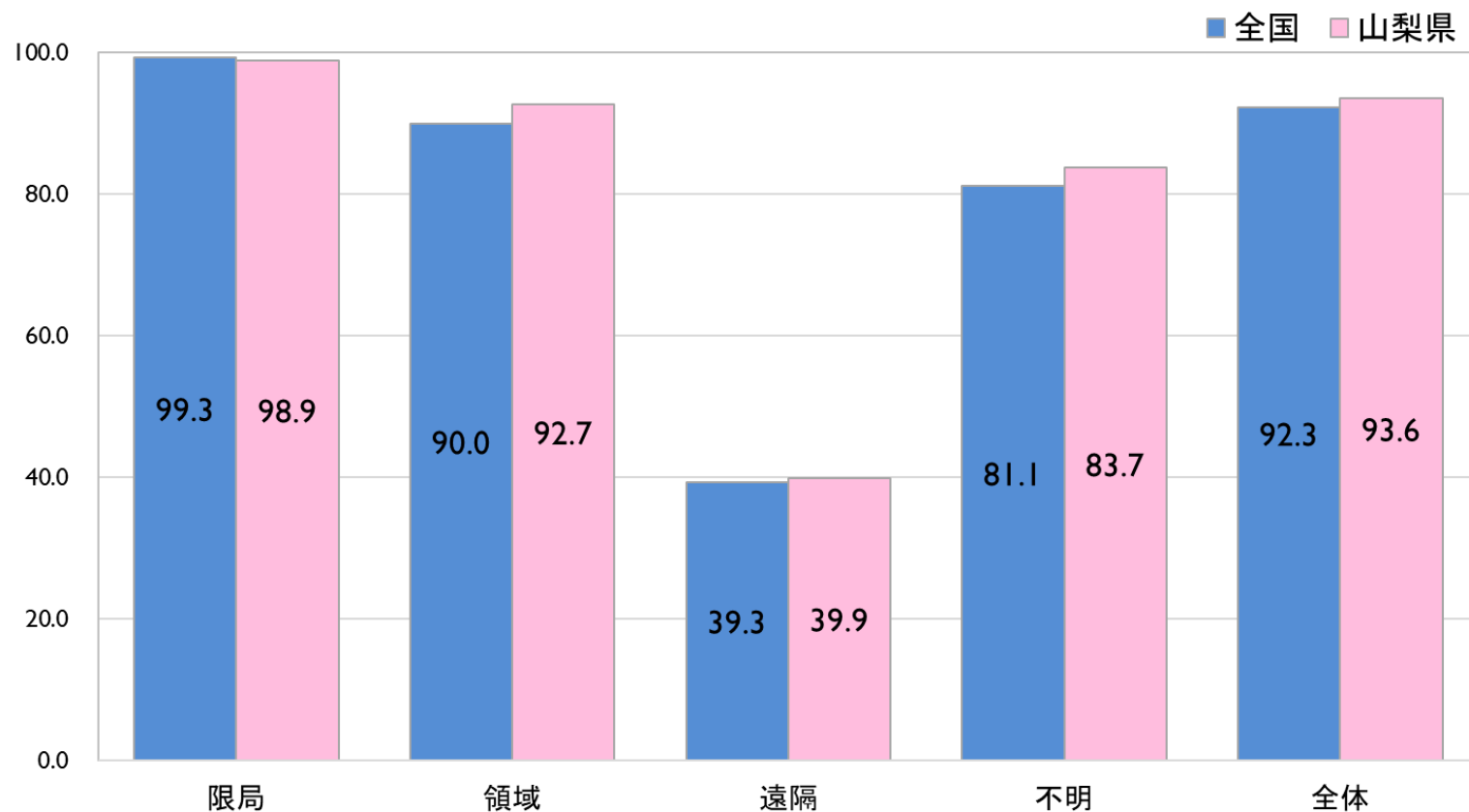
乳がん(女性)75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)



乳がん

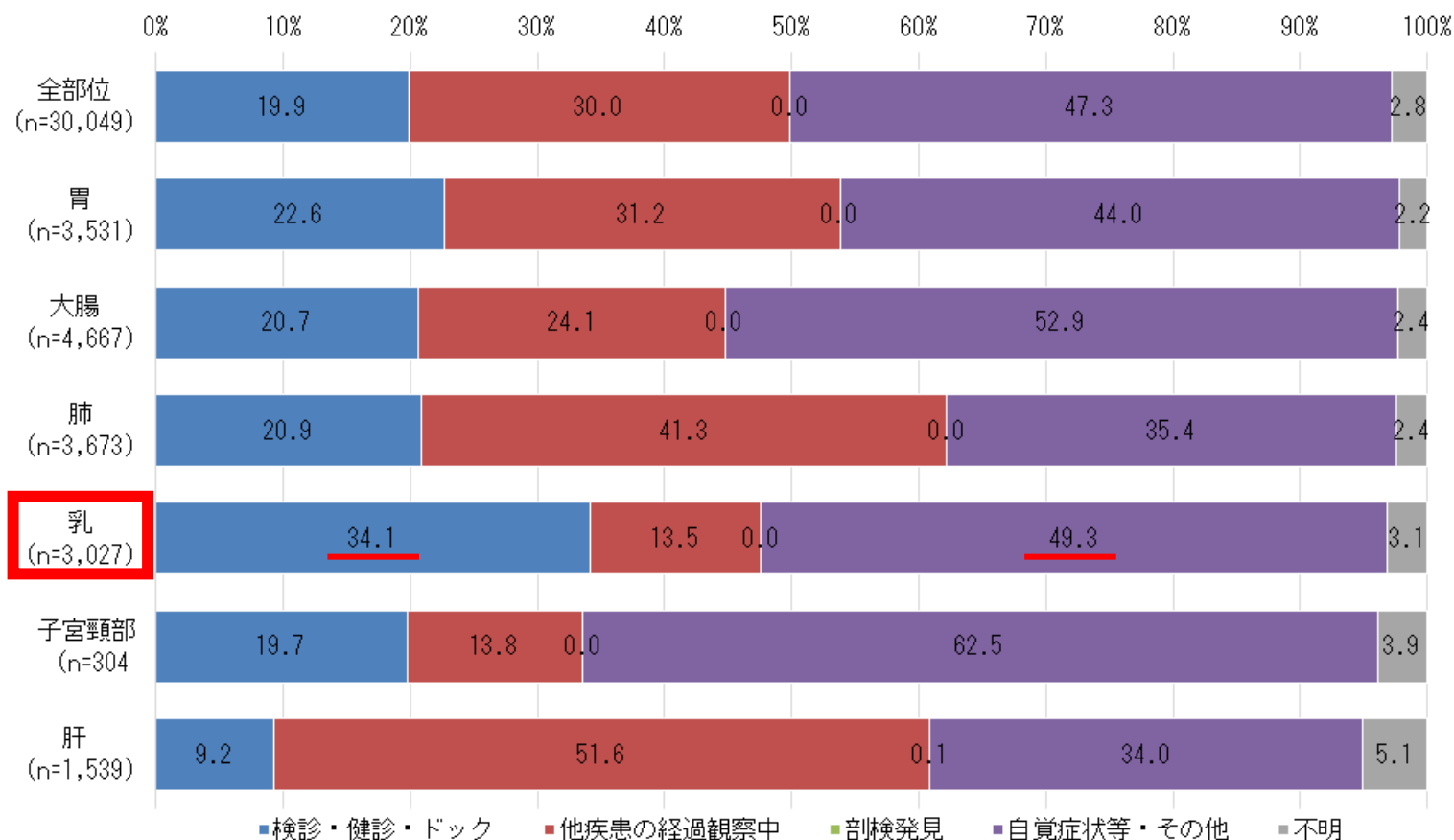
2. 5年相対生存率は、限局98.9%、領域92.7%であり、いずれも90%を超えている。
(参考資料1スライド72)

乳がん(女性)進行度別5年相対生存率(2009～2011年)



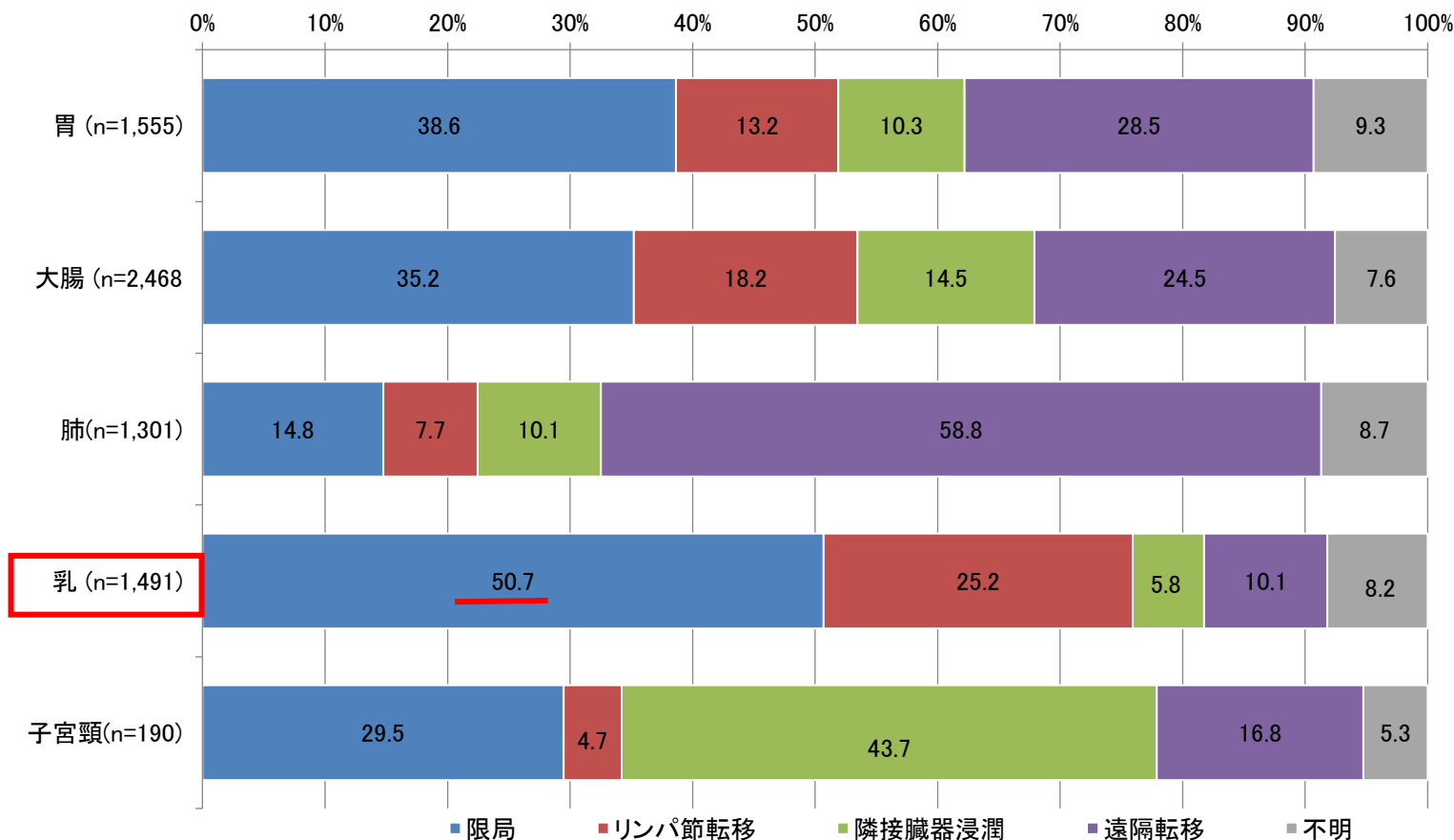
3. 発見経緯(2016~2020)は、検診等が34.1%で他のがんに比べて高いが、自覚症状等も49.3%ある。
(参考資料1スライド16)

部位別の発見経緯 (2016~2020年)



4. 発見経緯別の進行度(2016～2020は、自覚症状等で発見されたうち限局が50.7%で、他のがんに比べ高いことから、検診の定期受診だけでなくブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)の啓発普及に努める必要がある。(参考資料1スライド32, 42, 52, 71, 86)

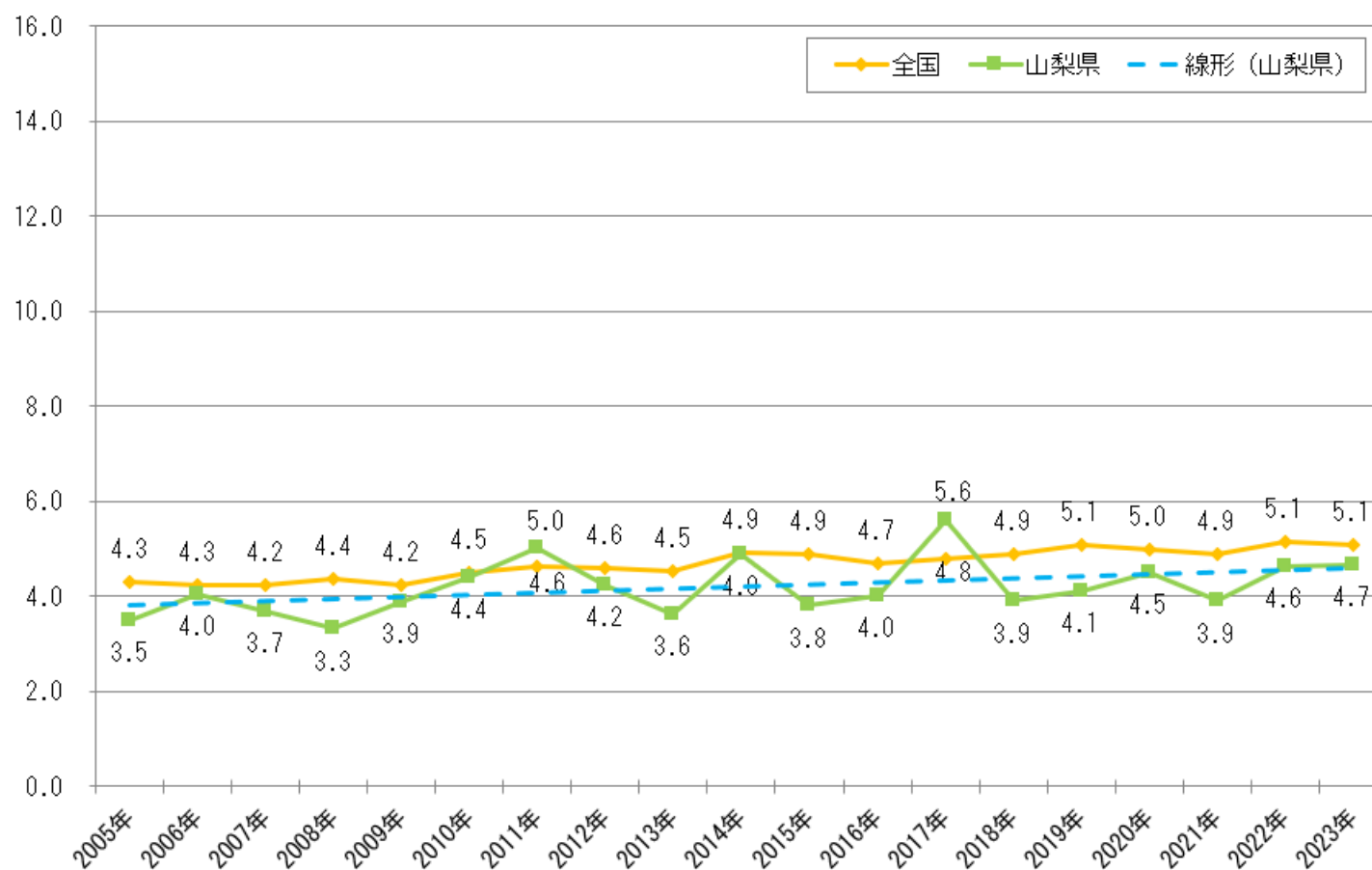
発見経緯自覚症状・その他の部位別進行度



子宮頸がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的にやや増加傾向で推移している。
(参考資料1スライド74)

子宮がん75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)

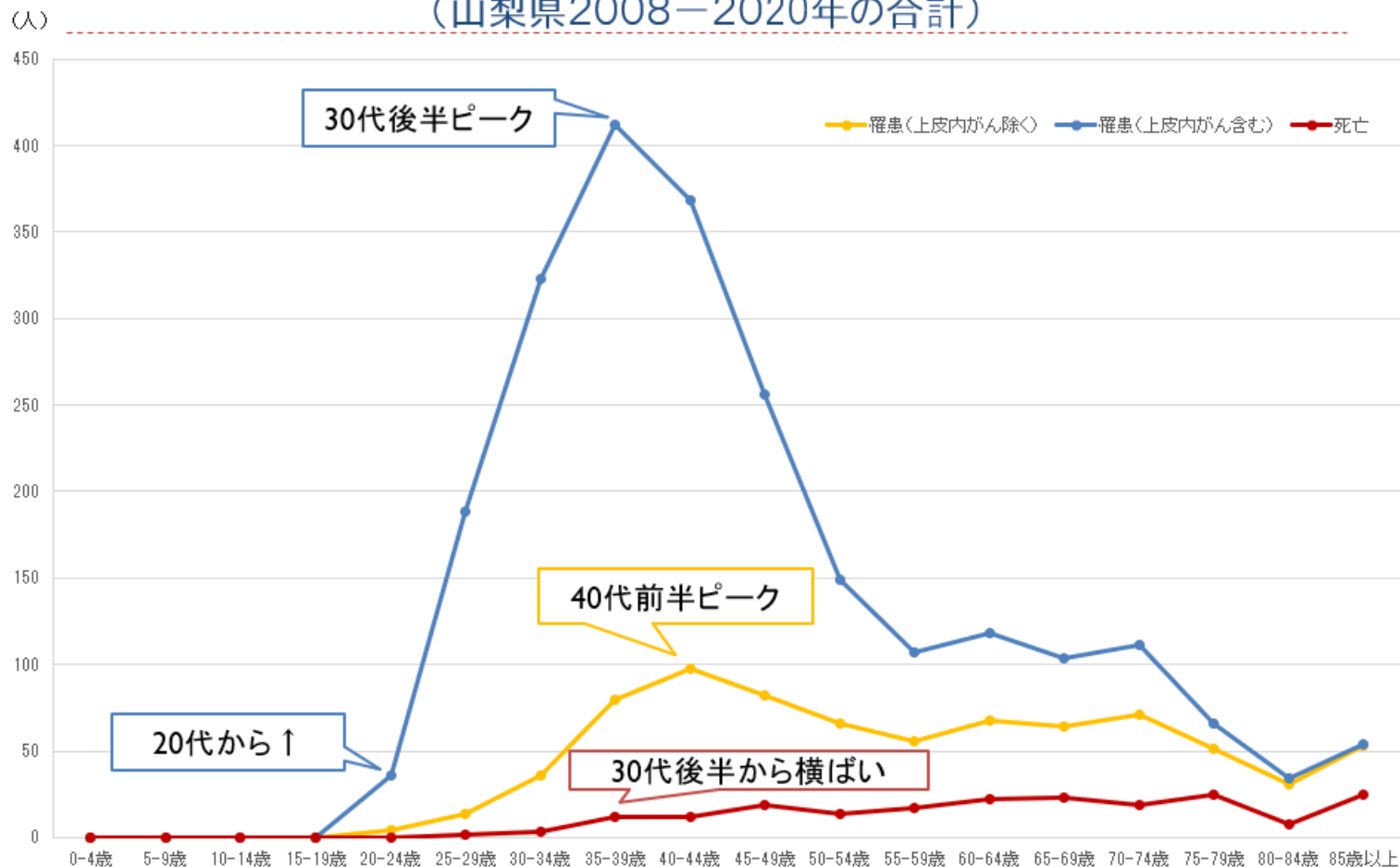


子宮頸がん

2. 年齢階級別罹患数は、上皮内がんを含む場合は30代後半がピークであることから、若年層への検診受診勧奨が重要である。（参考資料1スライド77）

子宮頸がん年齢階級別罹患数と死亡数の比較

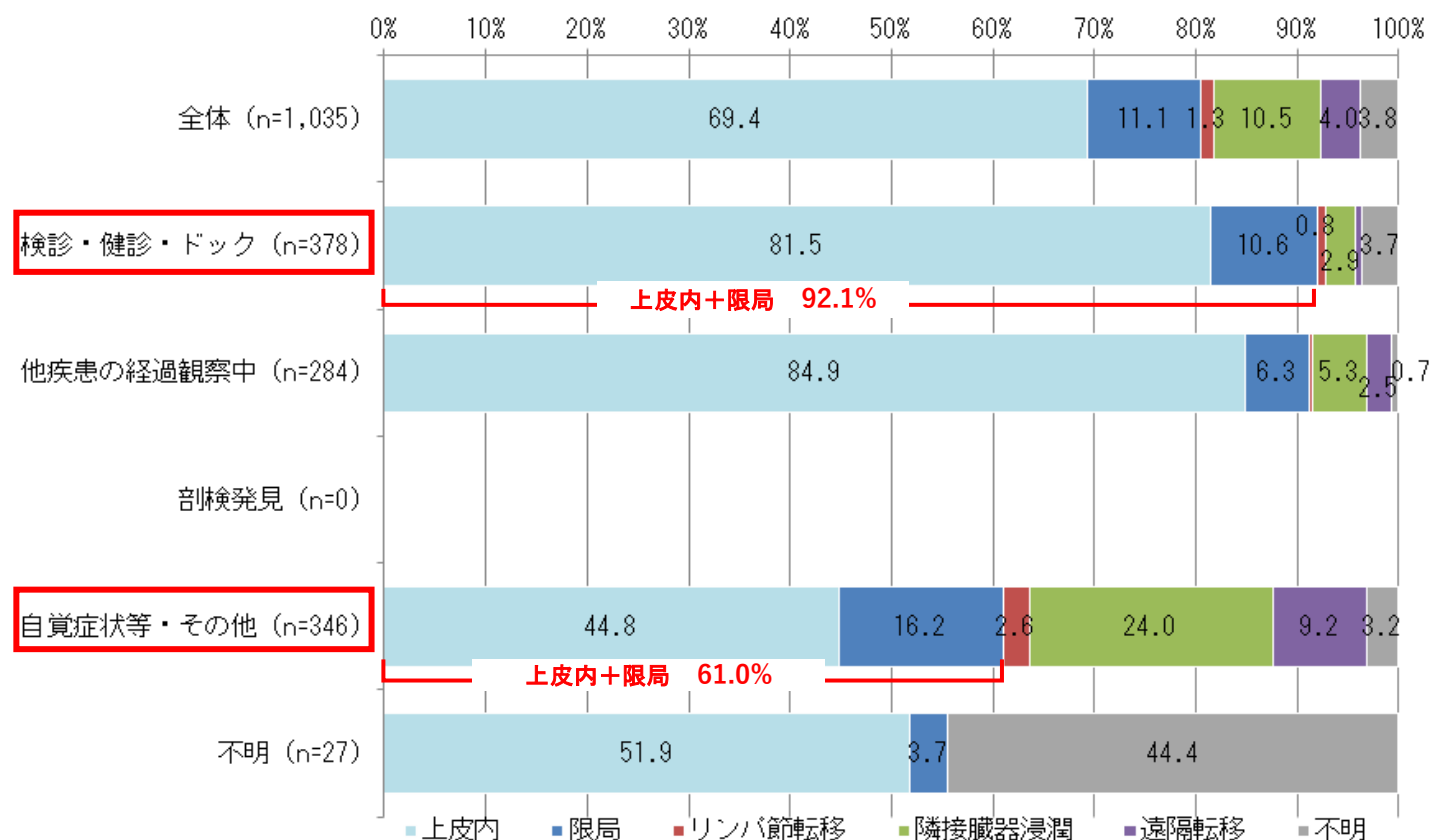
(山梨県2008－2020年の合計)



子宮頸がん

3. 上皮内がんを含む発見経緯別の進行度(2016~2020)は、検診等で発見されたうち上皮内がん及び限局が9割以上を占めるのに対し、自覚症状等ではこれらが6割にとどまる。(参考資料1スライド85)

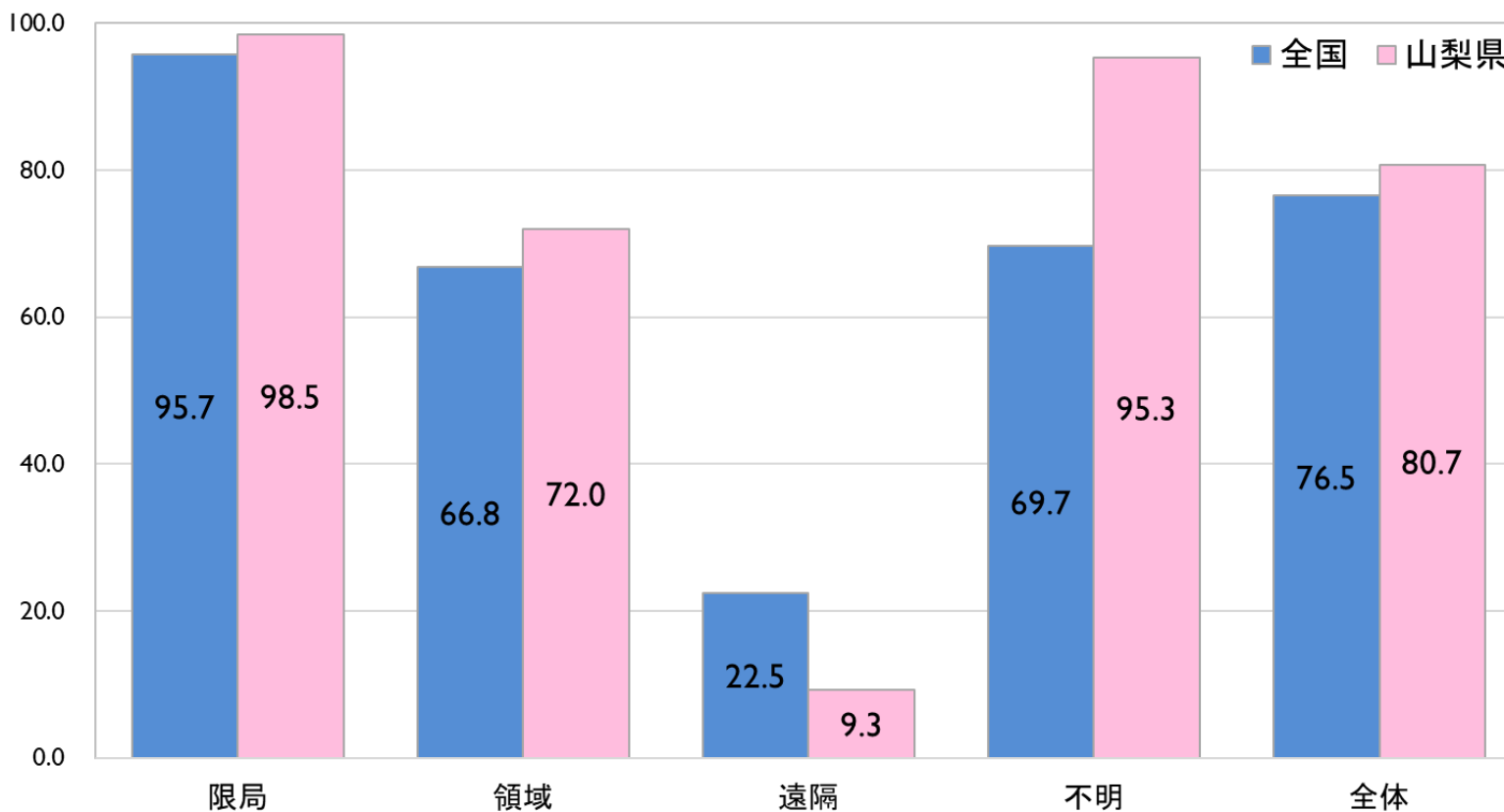
子宮頸がん(上皮内がん含む)発見経緯別の進行度(2016~2020年)



子宮頸がん

4. 5年相対生存率は、限局が98.5%であるが、領域では72.0%に減少しており、早期発見が重要である。
(参考資料1スライド87)

子宮頸がん進行度別 5 年相対生存率 (2009～2011年) (%)



領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤